

大学キャンパス内でクマが目撃された場合の対応（フロー）

〈平日・昼キャンパス内でクマが目撃された一報を受ける（事務局）〉



- 一報を受けた者は、事務局長、各課・室長に連絡しつつ、手分けをして建物の各自動ドアの電源を切る。（手動にする。その後、「手動」張り紙）



- 事務局長（不在時は総務課長、不在時は他の課・室長）は職員に、次の対応を指示する。

- ・ 構内一斉放送

「ただ今、キャンパス内でクマの目撃情報がありました。情報を収集していますので、次の連絡があるまで建物の中に止まってください。又、外にいる方々は、建物の中に入るようにしてください。なお、自動ドアの電源を切っていますので、手で開けた後、閉めなおしてください」

- ・ 学生及び教職員の一斉メールの送信

「キャンパス内でのクマ目撃情報があったこと、次の連絡までキャンパスに向かわないこと」

- ・ 警察への連絡

「キャンパス内で目撃情報あり。関係者は建物内に止まらせている旨を伝え、見回り等を要請」



- 防災対策委員会委員と防災対策予備委員でキャンパス内にいる者は、一旦事務局に集合、対策本部を設置し今後の対策を協議する体制をとる。

- ・ 防災対策委員

学長、専務理事、学部長、研究科長、事務局長、総務課長、大学院事務室長

- ・ 防災対策予備委員

IMC 長、図書館長、キャリア開発センター長、地域共創センター長、教育推進センター長、学生支援センター長、保健管理部長、研究活動推進委員長、事務局各課・室長



- 対策本部では、見回り等を要請した警察等からの情報を収集し、授業継続をはじめとする当日の大学運営に係る対応を検討する。

※ 考え方は、キャンパス内の人的被害防止を第一とした対応とする。

※ クマがキャンパス外に移動するなどして、安全が確保された段階で、通常の大学運営に移行する。

※ クマがキャンパス内に止まり続けるなど、長時間の対応となる場合は、警察等と連携して学生等を帰宅させる措置を講じる。その場合、徒歩等の移動手段となる者に対しては、バスを活用するなどの対応を行う。



- 対策本部での対応について、適時周知を図るため、ホームページ、学生一斉メール及び教職員緊急連絡網を活用することとする。

◇ 上記を基本形とし、夜間、休日の対応については、通常の緊急連絡先(者)が警備員等からの連絡を受け、防災対策委員と連絡をとり、対応を図る。

◇ 夜間、キャンパス内にクマが居続ける状況下で、新たに多くの者がキャンパスに向かうのはリスクを伴うため、警察や夜間警備員と連絡を取り、通勤する者を限定し対応を図るものとする。